

# 株式会社椿本チエイン 2014年3月期 第2四半期決算説明会



2013年11月19日

---

# 2014年3月期 第2四半期 連結業績報告

---

注) 本資料で表記する「上期」は、当該連結会計年度における4月1日～9月30日、  
「下期」は、同10月1日～翌3月31日を示します。  
(海外子会社の一部は、上期：1月1日～6月30日、下期：7月1日～12月31日となります)

# 1. 上期レビュー 連結決算ハイライト

2

- 自動車部品事業、北米のチェーンビジネスが牽引役となり 期初予想を上回り着地。

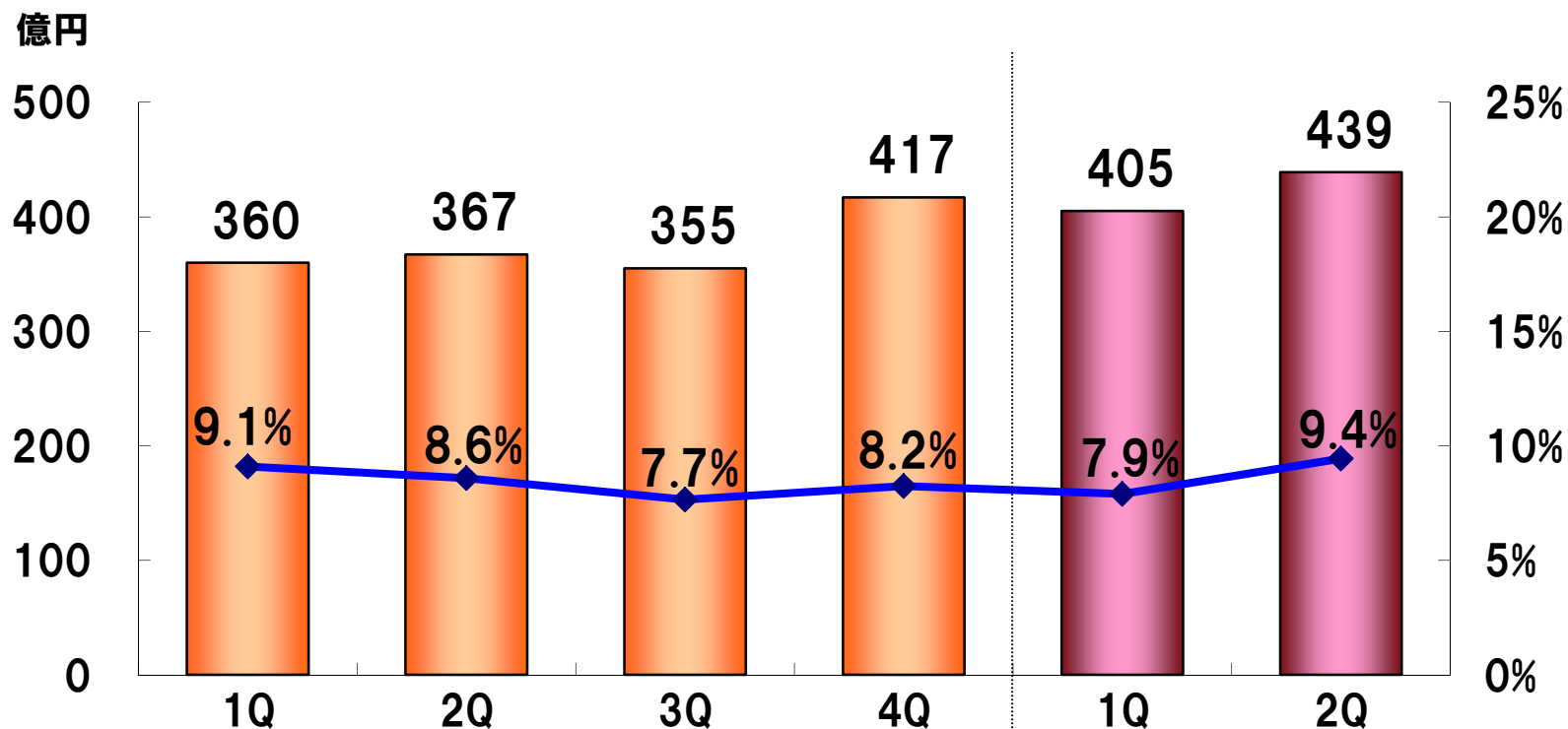
(単位：百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	前年同期比	期初予想比
	上期実績	上期実績	増減率	増減率
売上高	72,773	84,532	16.2%	2.6%
営業利益	6,419	7,347	14.5%	28.9%
営業利益率	8.8%	8.7%		
経常利益	6,525	7,511	15.1%	25.2%
四半期純利益	3,810	4,370	14.7%	21.4%
1株当り四半期純利益	20.36	23.35	—	—
(為替レート 1US\$)	79.41	98.86	—	—
(為替レート 1EURO)	100.54	129.98	—	—
自己資本比率	45.6%	50.0%	自己資本/総資産	
ネット D/E レシオ	0.20	0.14	(有利子負債-現預金)/自己資本	

## 2. 上期レビュー 四半期毎連結業績の推移

3

### ■ 売上高、営業利益率の推移（連結）



2013年3月期

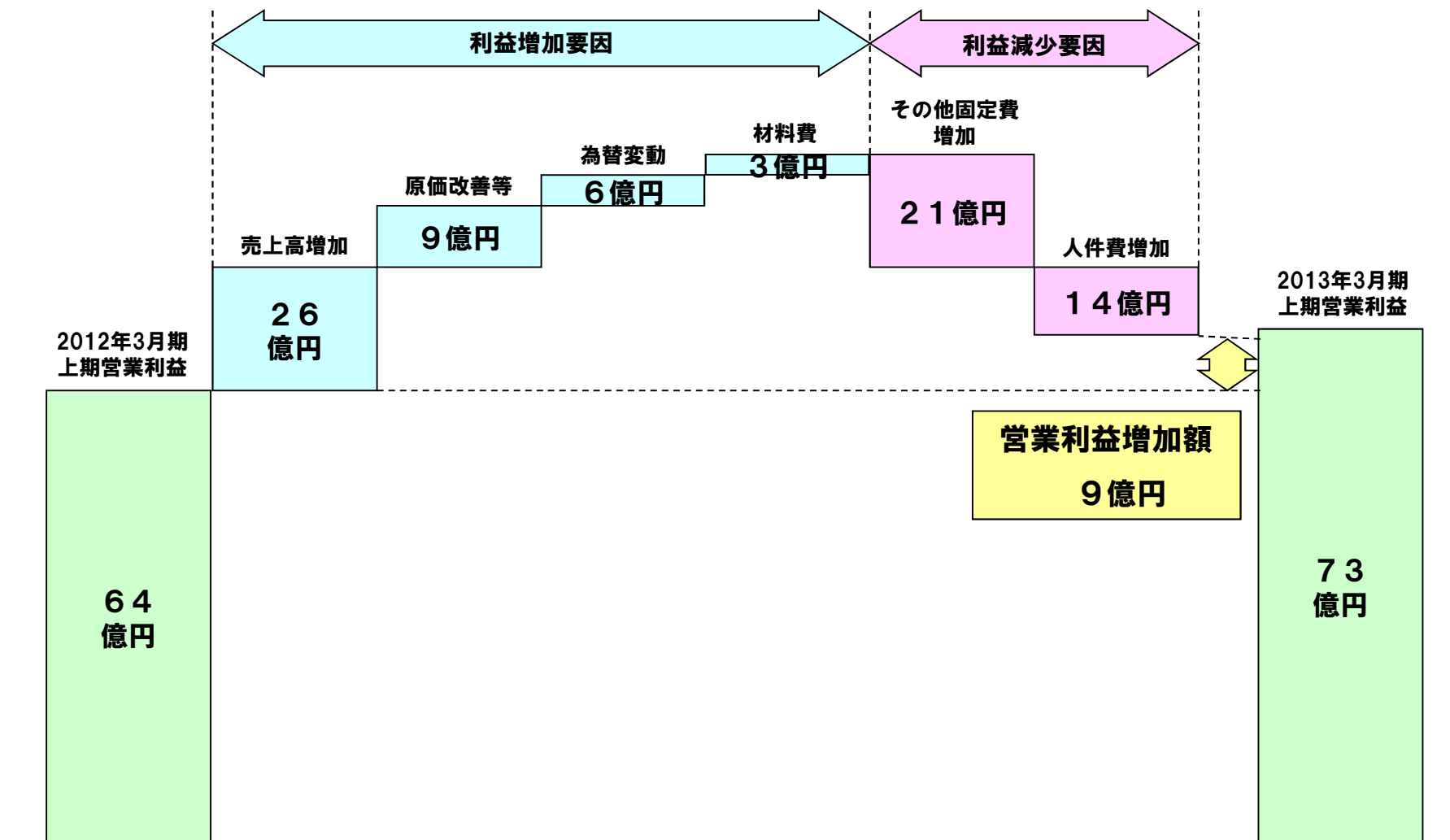
2014年3月期

主な為替レート	2013年3月期 通期	2014年3月期 上期
US \$	82.92円	98.86円
ユーロ	106.78円	129.98円

単位：億円、：売上高、：営業利益率

# 3. 上期レビュー 連結営業利益増減要因分析

## 2013年3月期上期実績 vs 2014年3月期上期実績



※営業利益の実績値は四捨五入後の数値です。

## 4. 上期レビュー 事業セグメント別内訳

5

■ 自動車部品が伸長。チェーン、精機、マテハンは海外が堅調も国内販売減少などにより、増収減益。

(単位：百万円)

		2013年3月期	2014年3月期	前年同期比	期初予想比
		上期実績	上期実績	増減率	増減率
チェーン	売上高 <sup>※注1</sup>	25,088	26,876	7.1%	1.0%
	営業利益	1,922	1,486	▲ 22.6%	11.6%
	営業利益率	7.7%	5.5%		
精機	売上高 <sup>※注1</sup>	10,005	10,340	3.3%	5.5%
	営業利益	1,017	932	▲ 8.3%	22.6%
	営業利益率	10.2%	9.0%		
自動車部品	売上高 <sup>※注1</sup>	24,396	29,492	20.9%	6.5%
	営業利益	3,244	4,823	48.7%	55.3%
	営業利益率	13.3%	16.4%		
マテハン	売上高 <sup>※注1</sup>	13,135	17,551	33.6%	▲ 3.6%
	営業利益	261	91	▲ 65.1%	▲ 59.7%
	営業利益率	2.0%	0.5%		
その他 <sup>※注2</sup>	売上高 <sup>※注1</sup>	1,435	1,396	▲ 2.7%	▲ 3.1%
	営業利益	92	28	▲ 69.3%	▲ 45.1%
	営業利益率	6.4%	2.0%		

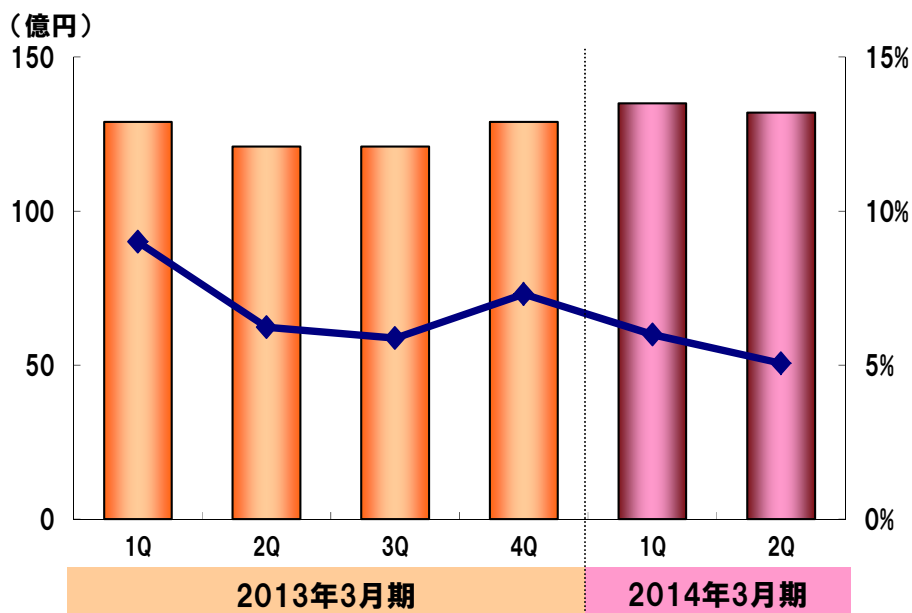
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

# 5. 上期レビュー 事業セグメント別概況

## ■ 売上高、営業利益率の推移

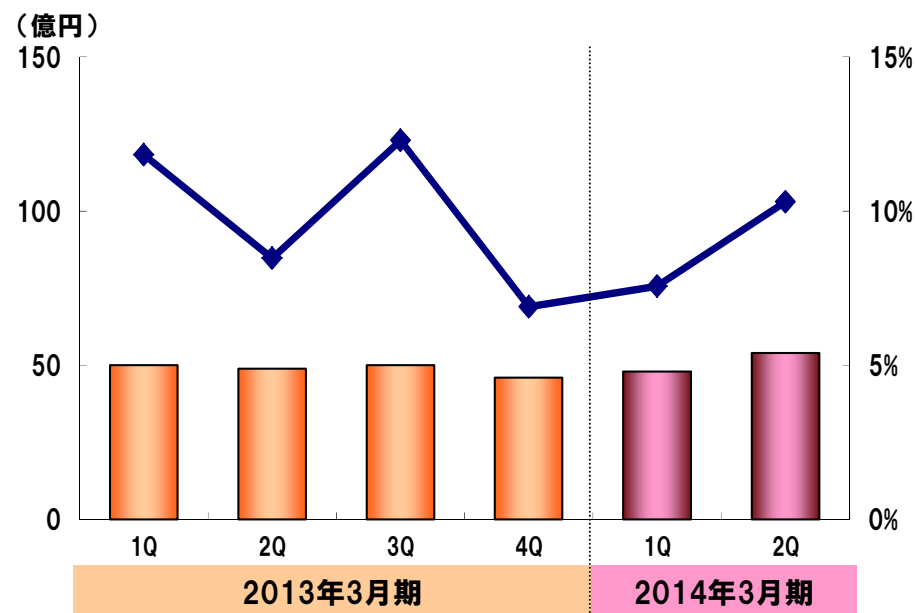
### ●チェーン事業



<地域別>

- 日本は販売減少も、回復基調。
- 北米、アジア・オセアニアは好調。
- 欧州は販売がやや減少。  
(円換算ベースでは前年同期比で増収)
- 中国・天津工場の立ち上げ費用等で収益性はやや悪化。

### ●精機事業



<地域別>

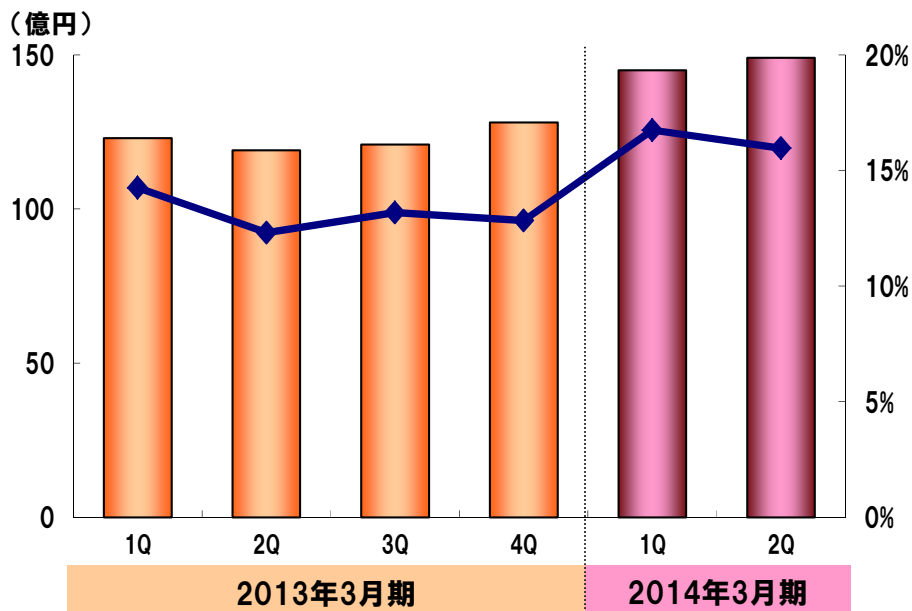
- 中国（天津子会社）が好調に推移。
- 中国（上海子会社）を新規連結。
- 日本は販売減少も、回復基調。

単位：億円、：売上高、：営業利益率

# 5. 上期レビュー 事業別セグメント概況

## ■ 売上高、営業利益率の推移

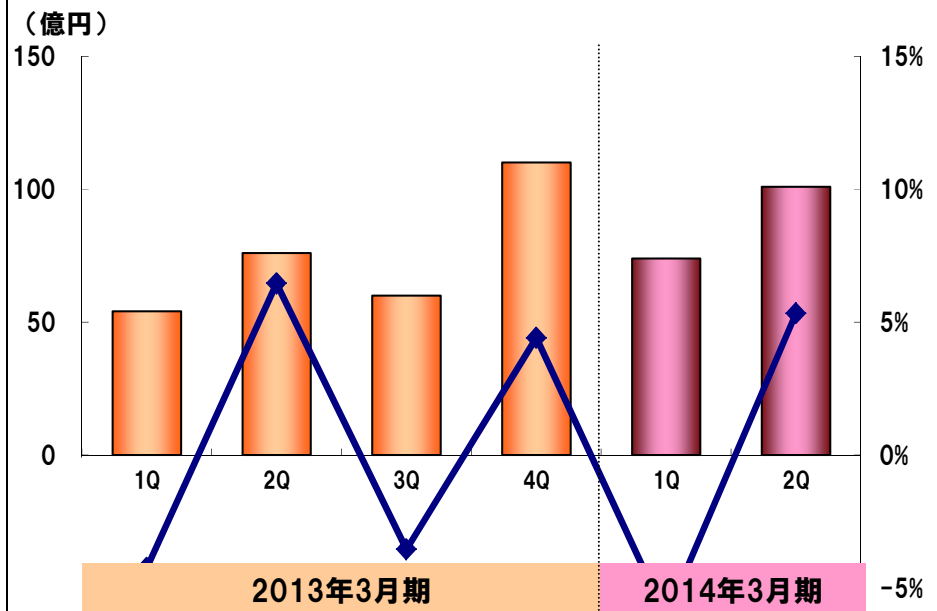
### ●自動車部品事業



#### <地域別>

- ・ 日本は、ほぼ横ばいで推移。
- ・ 北米、タイ、韓国は、好調。
- ・ 中国は、尖閣問題の影響が残るものの、回復傾向。  
(円換算ベースでは前年同期比で増収)

### ●マテハン事業



#### <業界別>

- ・ 国内工作機械向けコンベヤが不調。
- ・ 流通、創薬、鉄鋼業界向けなど、国内向け売上が減少。
- ・ メイフラン社（米国）の新規連結により売上増加の一方、のれん償却などにより利益率は悪化。

単位：億円、：売上高、：営業利益率



## 6. 上期レビュー 所在地セグメント別概況

8

### ■ 北米とアジア・オセアニアが大幅に伸長。

(単位：百万円)

		2013年3月期	2014年3月期	前年同期比
		上期実績	上期実績	増減率
日 本	売上高 <sup>※注</sup>	55,536	52,637	▲ 5.2%
	営業利益	4,486	3,807	▲ 15.1%
	営業利益率	8.1%	7.2%	
北 米	売上高 <sup>※注</sup>	13,324	20,938	57.1%
	営業利益	1,026	1,772	72.7%
	営業利益率	7.7%	8.5%	
欧 州	売上高 <sup>※注</sup>	6,248	10,173	62.8%
	営業利益	222	▲ 22	▲ 110.3%
	営業利益率	3.6%	—	
アジア ・オセアニア	売上高 <sup>※注</sup>	8,358	12,134	45.2%
	営業利益	795	1,226	54.3%
	営業利益率	9.5%	10.1%	
そ の 他	売上高 <sup>※注</sup>	23	137	473.0%
	営業利益	▲ 29	▲ 28	—
	営業利益率	—	—	

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

<主な実績レート>

'13/3上期：US\$=¥79.41, EURO=¥100.54, Can\$=¥79.13, A\$=¥81.30, THB=¥2.57, NT\$=¥2.67, RMB=¥12.63, WON=¥0.070

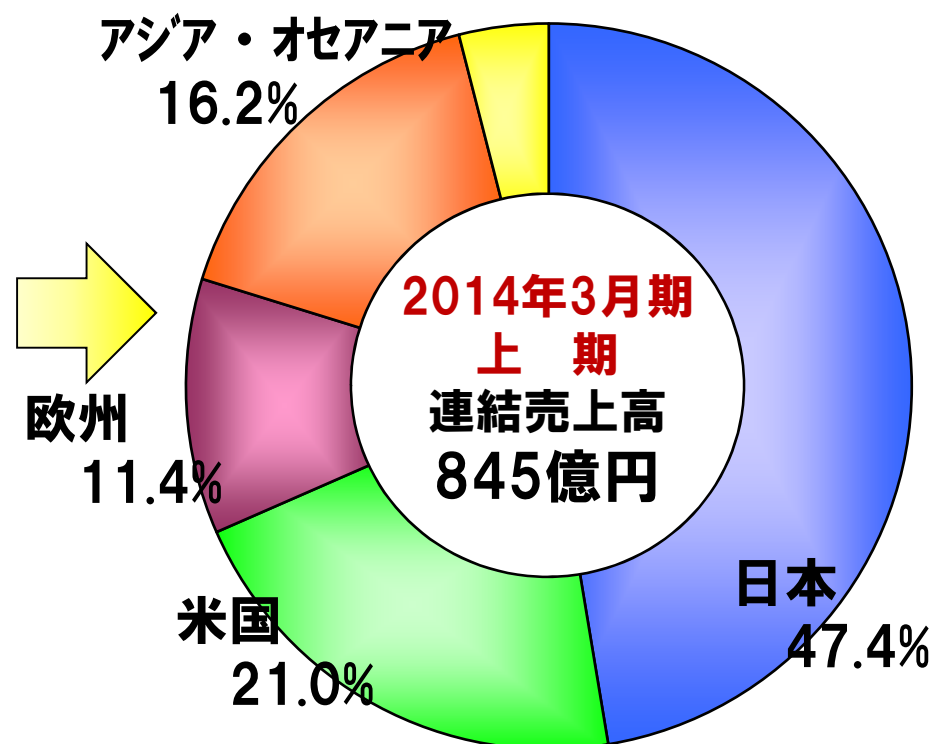
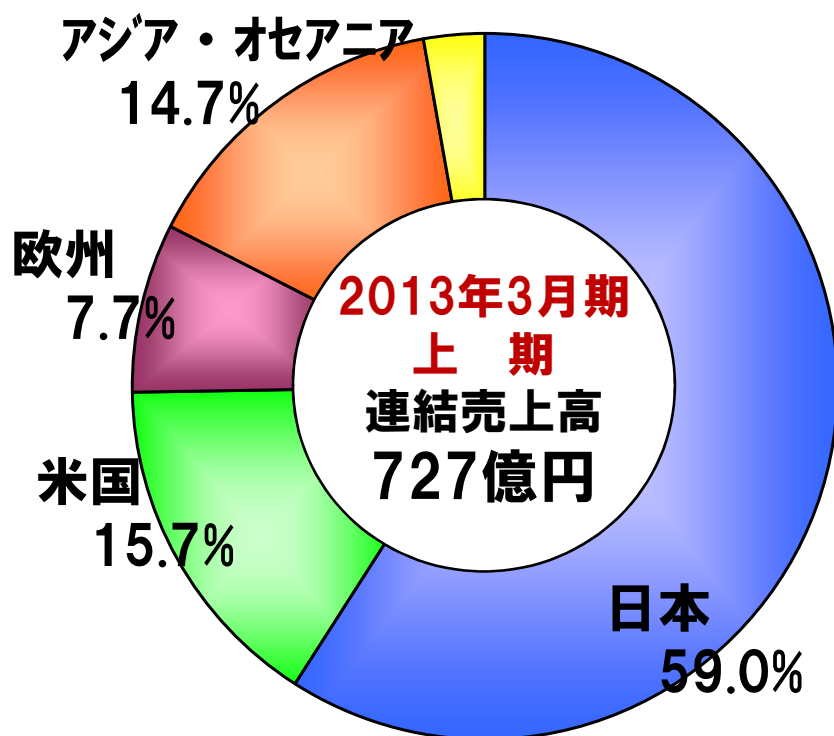
'14/3上期：US\$=¥98.86, EURO=¥129.98, Can\$=¥95.84, A\$=¥94.22, THB=¥3.21, NT\$=¥3.31, RMB=¥15.49, WON=¥0.087

## 7. 上期レビュー 海外売上高比率

■ メイフラン新規連結等により  
海外売上高比率は、52.6%へと上昇。

海外売上高比率：41.0%

海外売上高比率：52.6%



※注1：売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。  
※注2：詳細データは、本資料に添付の「データ集」をご参照ください。

---

---

# 2014年3月期 通期連結業績予想

---

---

# 1. 14年3月期 通期連結業績予想

- 上期実績を鑑み、通期の利益予想を上方修正。  
連結営業利益率は、8.5%を予想。(2013.11.07公表)

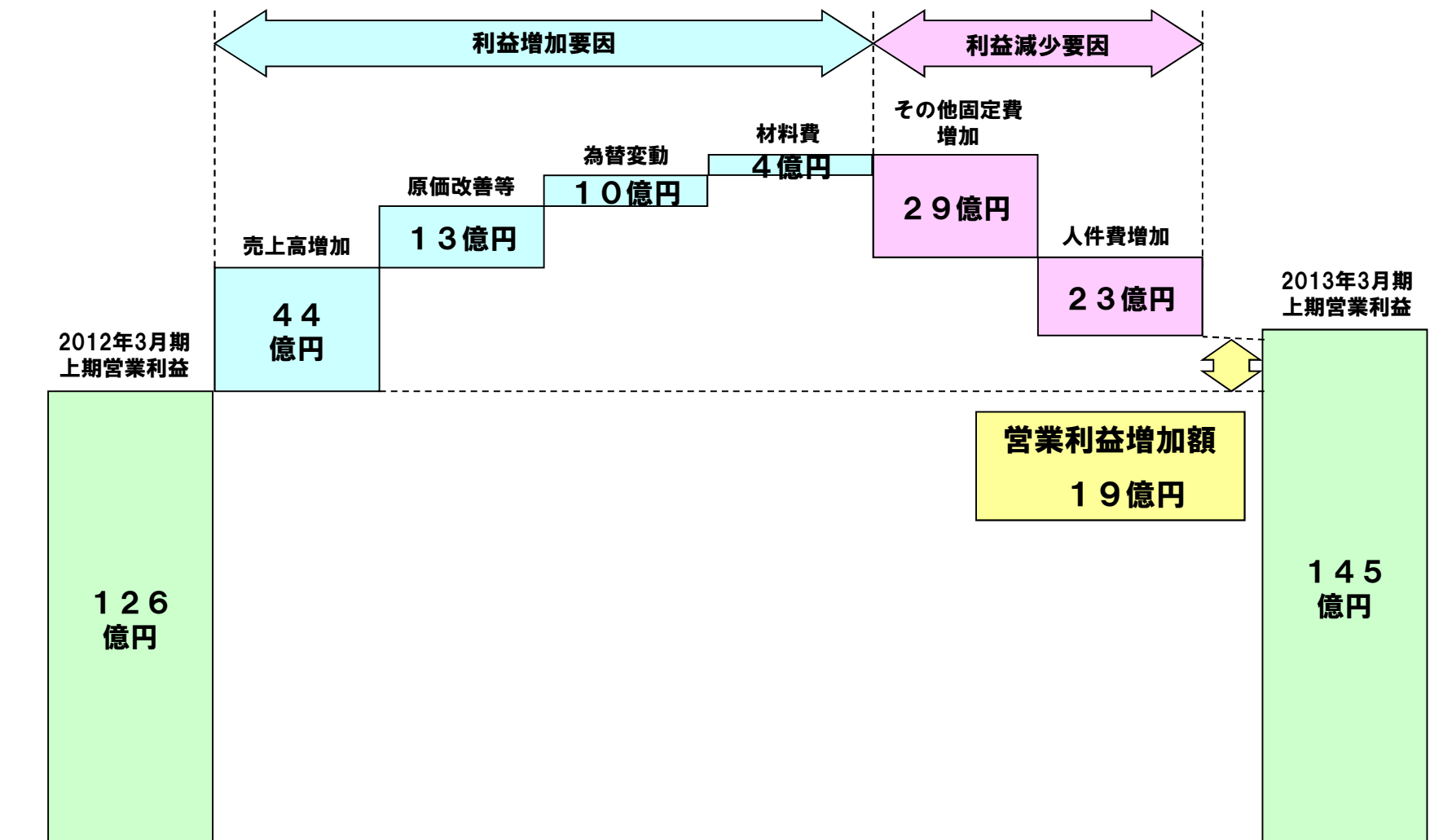
(単位：百万円)

	2013年3月期		2014年3月期		前期比	期初予想比
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率	増減率
売上高	150,002	84,532	85,468	170,000	13.3%	0.0%
営業利益	12,579	7,347	7,153	14,500	15.3%	5.8%
営業利益率	8.4%	8.7%	8.4%	8.5%		
経常利益	12,813	7,511	7,089	14,600	13.9%	5.8%
当期純利益	7,428	4,370	4,330	8,700	17.1%	7.4%
1株当たり当期純利益	39.69円	23.35円	-	46.49円	-	-
(為替レート 1US\$)	82.92円	98.86円	-	95.00円	-	-
(為替レート 1EURO)	106.78円	129.98円	-	120.00円	-	-

## 2. 14年3月期 連結営業利益増減要因分析

12

### ■ 2013年3月期実績 vs 2014年3月期予想



※営業利益の実績値は四捨五入後の数値です。

### 3. 14年3月期 事業セグメント別業績予想

■ 上期実績、下期見通しなどに基き、  
事業セグメント別業績予想を修正。

(単位：百万円)

		2013年3月期	2014年3月期			前期比	期初予想比
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率	増減率
チェーン	売上高 <sup>※注1</sup>	50,250	26,876	27,324	54,200	7.9%	▲1.1%
	営業利益	3,586	1,486	1,694	3,180	▲11.3%	▲2.6%
	営業利益率	7.1%	5.5%	6.2%	5.9%		
精機	売上高 <sup>※注1</sup>	19,664	10,340	10,060	20,400	3.7%	0.0%
	営業利益	1,955	932	958	1,890	▲3.3%	2.2%
	営業利益率	9.9%	9.0%	9.5%	9.3%		
自動車部品	売上高 <sup>※注1</sup>	49,397	29,492	28,708	58,200	17.8%	2.5%
	営業利益	6,494	4,823	4,317	9,140	40.7%	26.5%
	営業利益率	13.1%	16.4%	15.0%	15.7%		
マテハン	売上高 <sup>※注1</sup>	30,246	17,551	19,349	36,900	22.0%	▲1.9%
	営業利益	531	91	309	400	▲24.7%	▲59.1%
	営業利益率	1.8%	0.5%	1.6%	1.1%		
その他 <sup>※注2</sup>	売上高 <sup>※注1</sup>	2,846	1,396	1,604	3,000	5.4%	▲3.5%
	営業利益	143	28	12	40	▲72.0%	▲70.4%
	営業利益率	5.0%	2.0%	0.7%	1.3%		

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

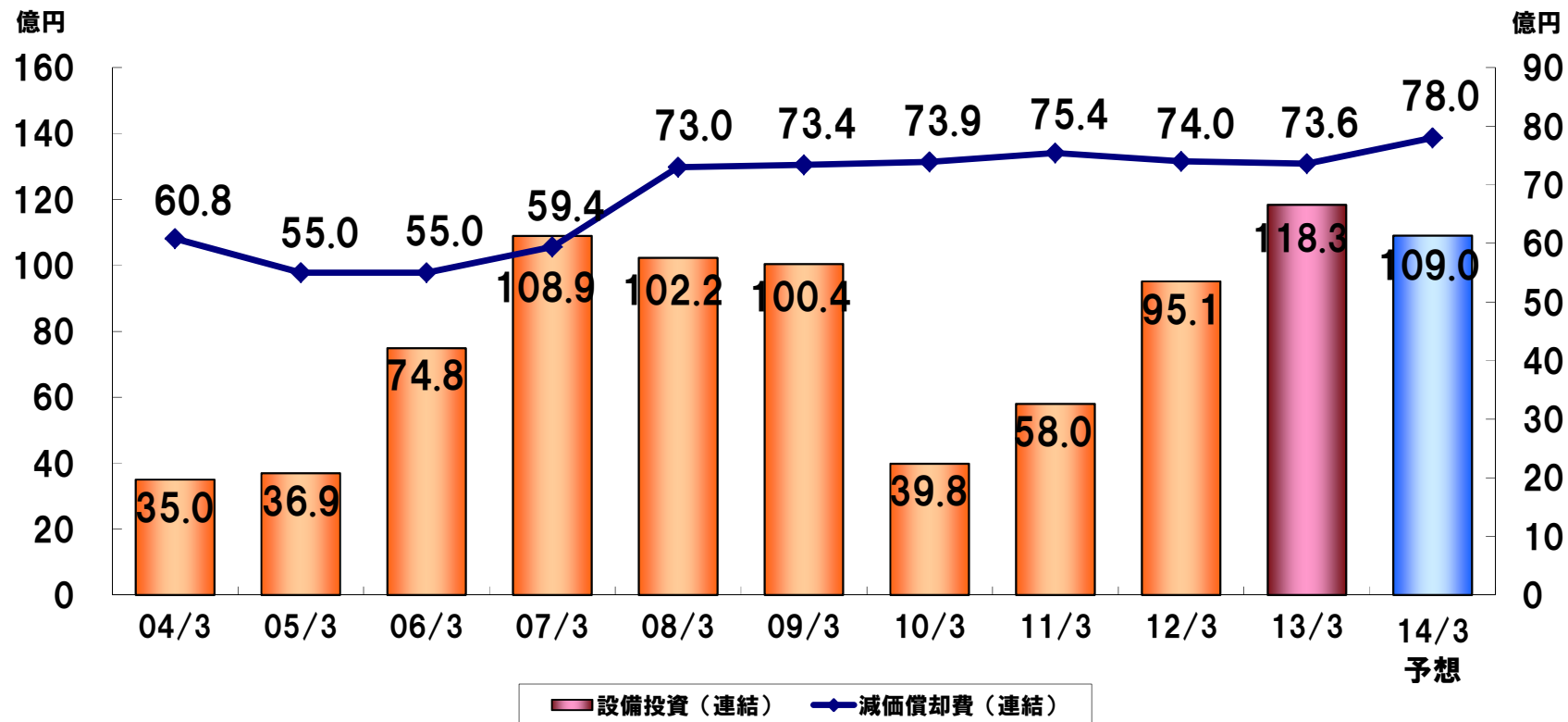
## 4. 14年3月期 設備投資・減価償却費

14

### ■ 主な設備投資

- ① 自動車部品事業のグローバル生産体制強化（日本、北米ほか）
- ② チェーン事業の生産設備関連（京田辺工場、天津工場）

### ■ 設備投資と減価償却費の推移



---

---

# 「中期経営計画2016」について

---

---



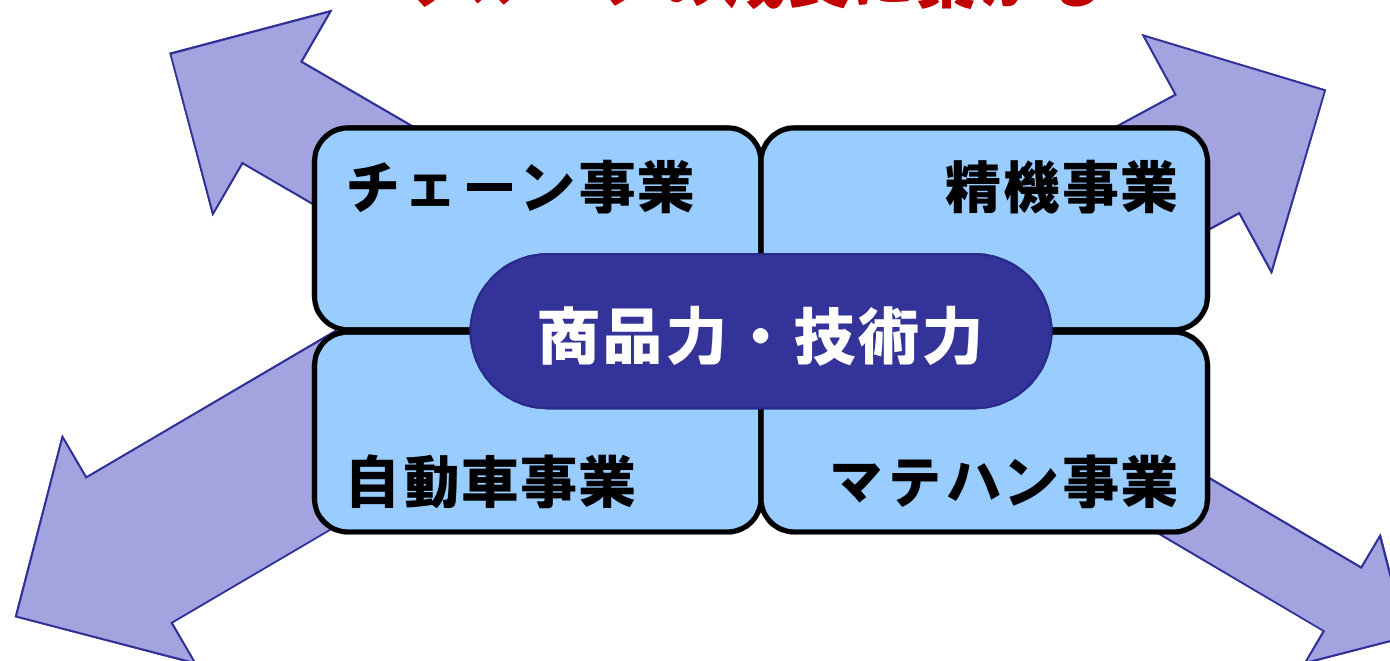
# 1. 従来の中期経営計画

16

■ 事業グループでの最適化を追求

■ 商品力および技術力の強みを最大限に発揮させる戦略

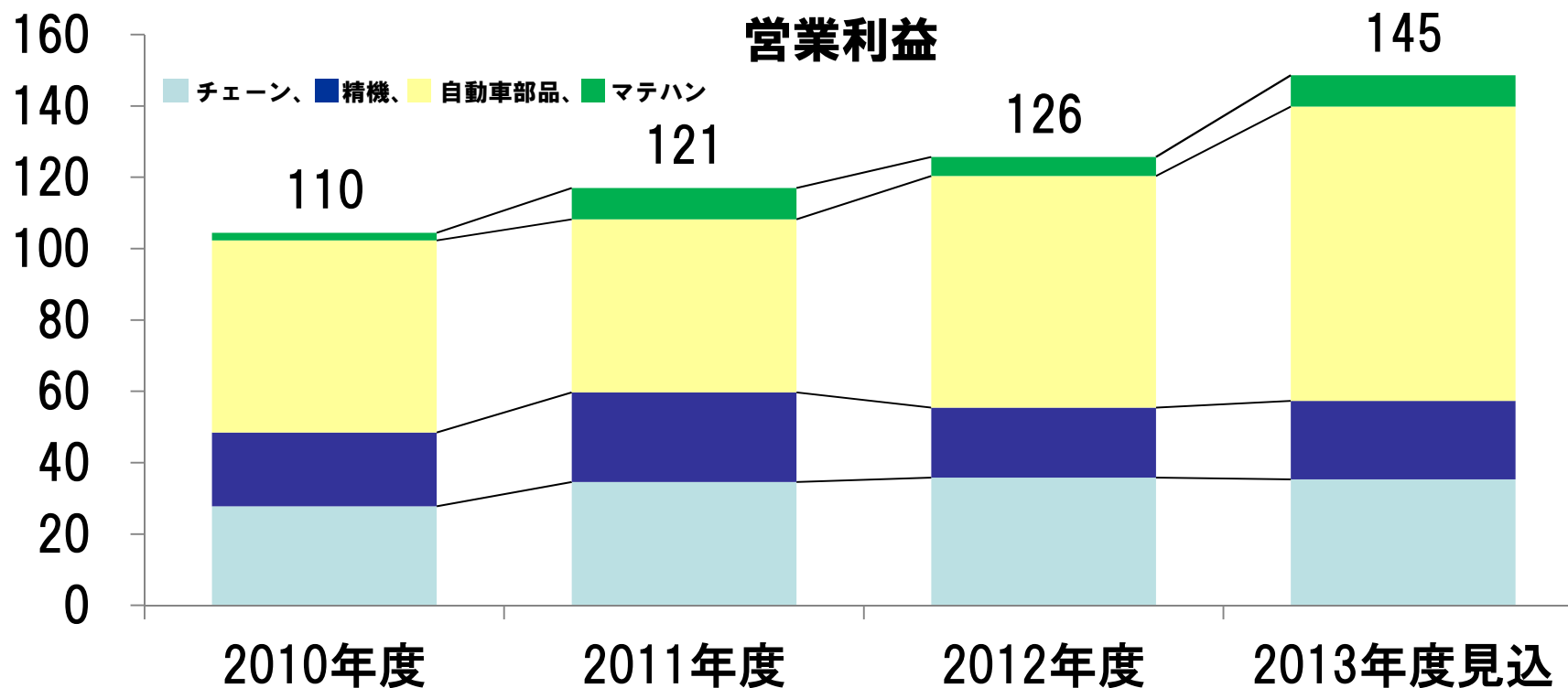
商品力・技術力を活かした個別事業の成長が  
グループの成長に繋がる



## 2. 連結業績の推移

17

### 自動車部品事業がグループの成長を牽引



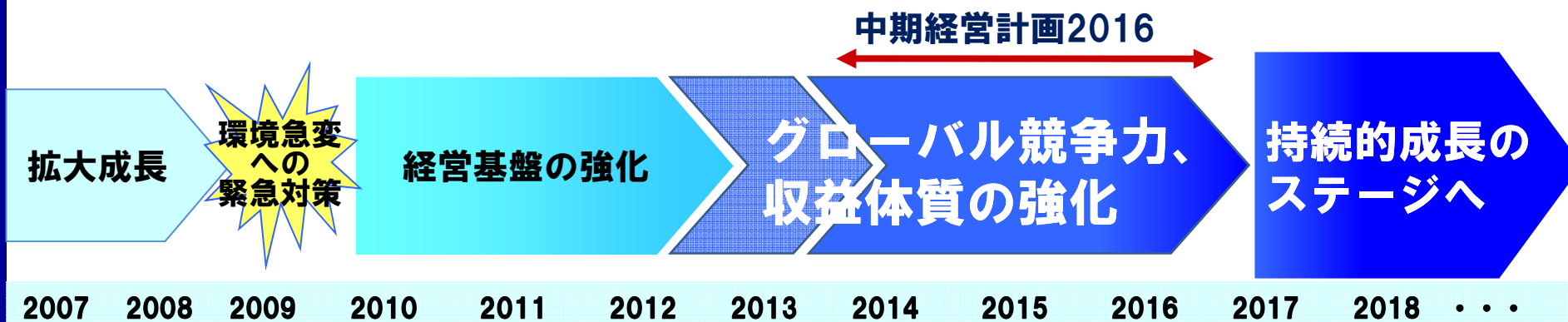
過去の成功体験にとらわれない、成長力強化が課題

### 3. 次期中期経営計画の方針

#### ■ 持続的成長の実現に向けて

- **市場における確固たる地位の確立**
  - ・ グローバルトップ、ニッチトップの実現
- **拡大成長市場への重点戦略**

2020年度：連結売上高：3,000億円  
海外売上高比率：70%



## 4. 市場における確固たる地位の確立

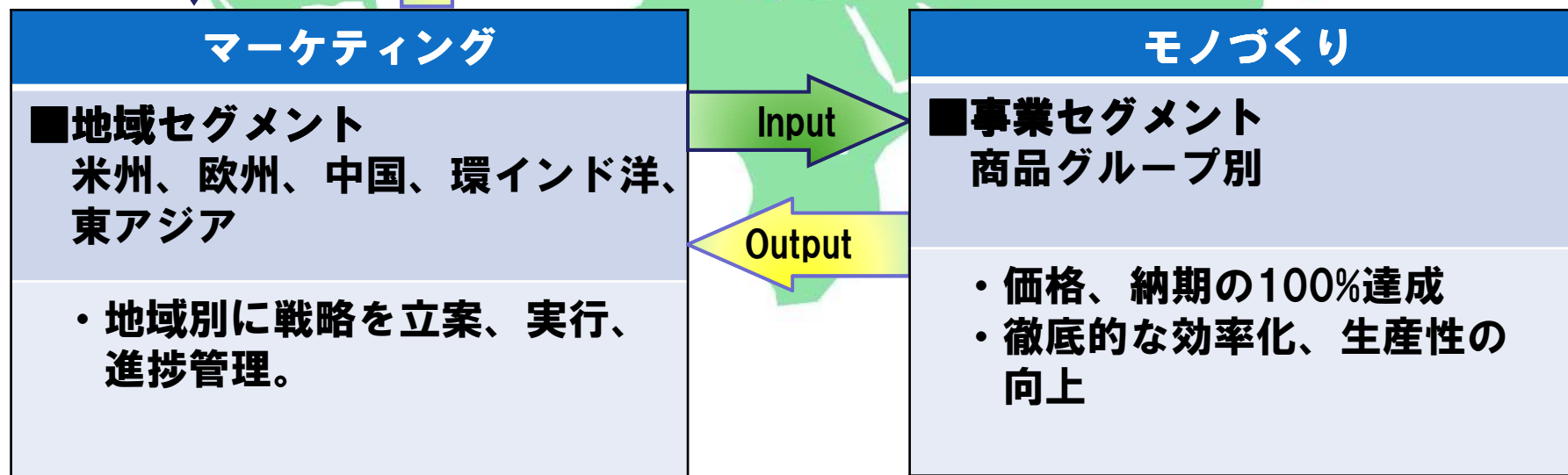
19

### ■ マーケットを重視した企業文化への転換

- ・ グローバルトップ、ニッチトップの実現

市場が  
QCDSを決める

「事業セグメント別」CBO体制から  
「マーケティング」、「モノづくり」の  
役割分担へ

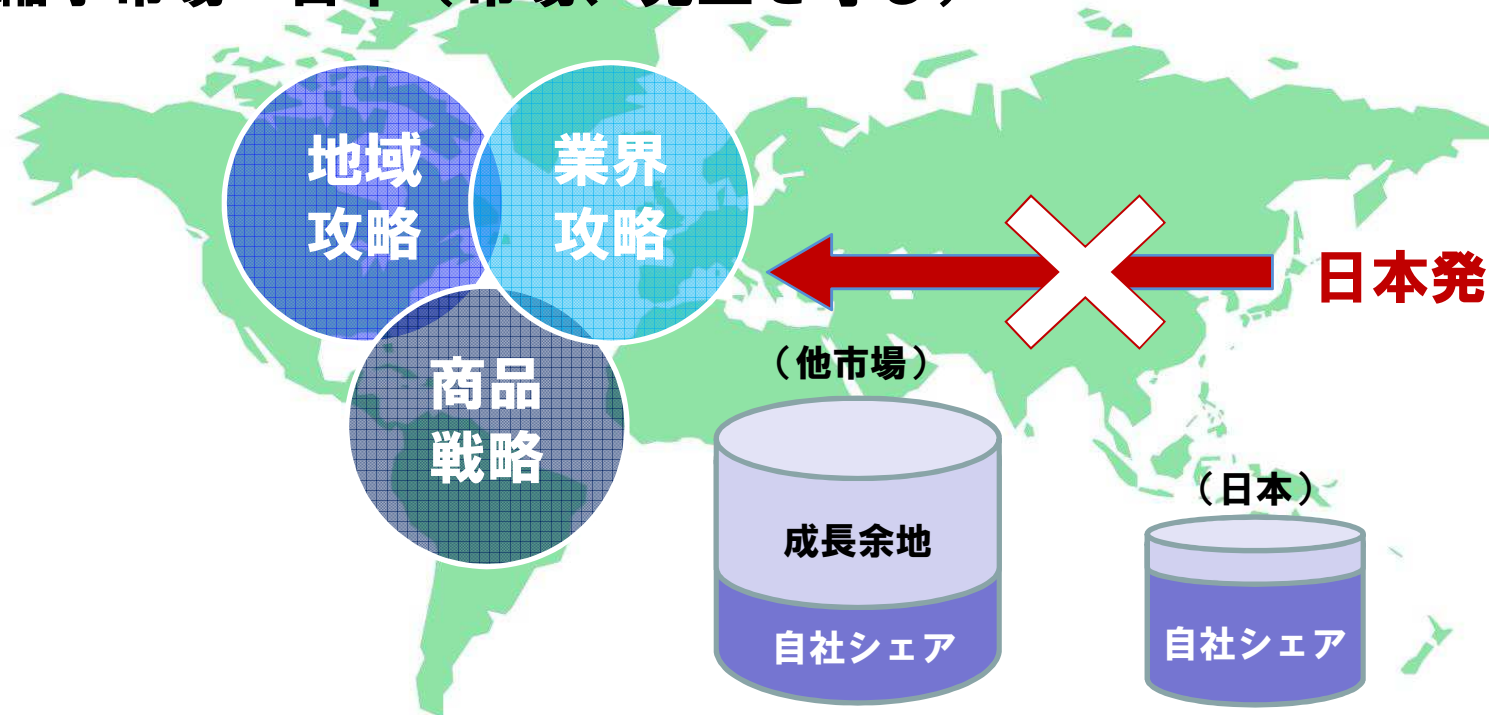


# 5. 拡大成長市場への重点戦略

## ■ 地域起点のマーケティング

- ・ マーケットニーズの把握と追及
- ・ 売れる場所、売れる価格、売る商品、競合情報の把握

成長市場：米州、欧州、中国、環インド洋、東アジア  
縮小市場：日本（市場、売上を守る）



### ■ (株)ツバキエマソンを完全子会社化（2013年10月26日）

#### ● 完全子会社化のねらい

- ① 経営の自由度向上。  
→ 経営戦略・商品戦略に関する意思決定の迅速化。
- ② 北米における販売の拡大。  
（合併契約上、販売できなかった商品の販売）
- ③ 配当収入増、少数株主利益負担の減少

● 投資総額：40億円

● 業績への影響：今期の売上、利益への影響は微少

・ のれん：約4億円（5年償却）

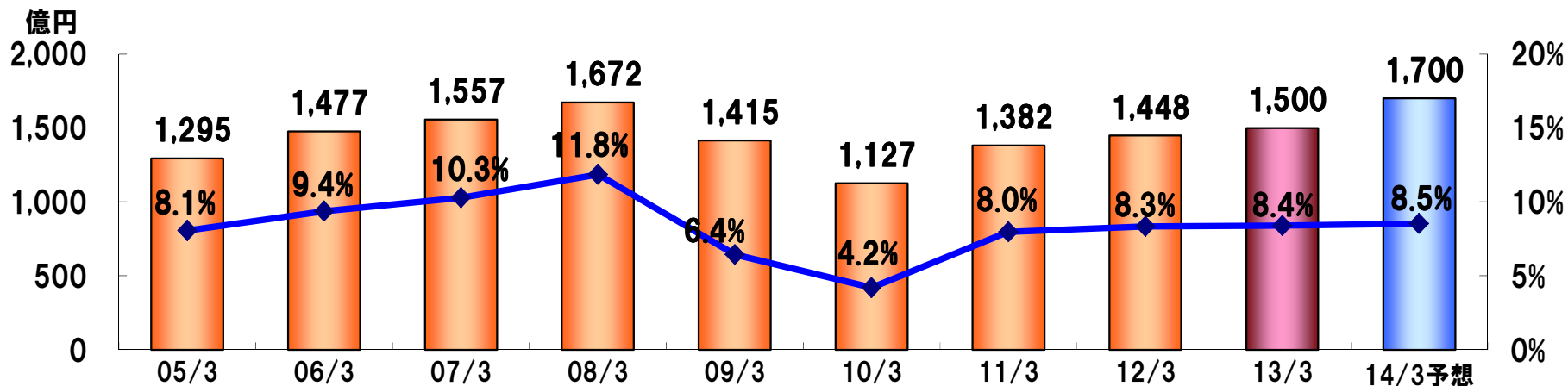


減速機

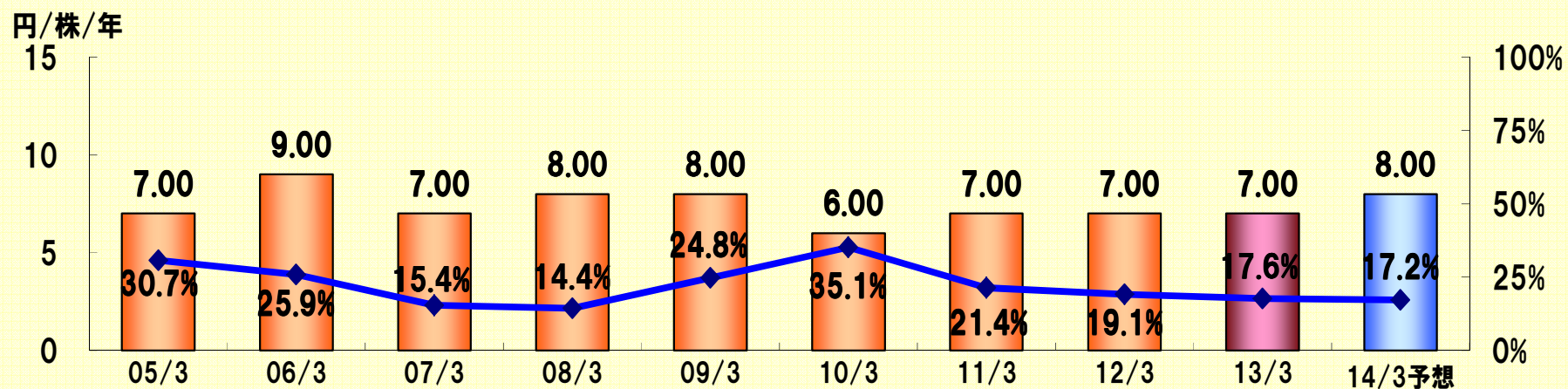


カムクラッチ

## ■ 連結売上高、連結営業利益率の推移



## ■ 1株当たり配当金、連結配当性向の推移



**本資料に記載されている事業計画および業績見通し等に関する記述は、各資料の作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの業績見通しとは異なる結果になりうることをご承知おきください。**